

# 東北地方太平洋沖地震における 難聴者の被災状況・支援ニーズ に関する調査報告

**実施団体：災害対策宮城本部**

**特定非営利活動法人みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会**

**特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会宮城県支部**

**協力企業：株式会社プラスヴォイス**



# はじめに

みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会(以後、当会)で、震災後、携帯電話等の通信回線の復旧とともに、全国要約筆記問題研究会宮城県支部の協力を得て、会員の皆様の安否確認や、当面の課題について東北地方太平洋沖地震全難聴対策本部と連携をとりながら対応を進めて来た。

平成23年3月20日、当会内に、「災害対策宮城本部」を発足させ、現在まで県内の難聴者への救援活動を行うのと同時に体制の整備を進めてきた。

本報告は、震災から3週間が経過した時点で、会員の被災状況、希望する支援内容等について確認し、救援体制を見直し、有効な方策の選定とこれを速やかに実行するため、アンケート調査を実施したものである。



# アンケート実施方法

## ■ 対象

当会会員76名のうち、中途失聴・難聴者かつ、宮城県内居住者の72名

## ■ 実施時期

2011年3月30日(水)から順次

## ■ 締切

2011年4月7日(木)

※締切時点で震災後約1ヶ月

## ■ 依頼方法

特定郵便による郵送・Eメール・FAXのうち、対象者に連絡可能な手段を全て利用

## ■ 回答方法

実名による回答。返信封筒での郵送・Eメール・FAXのうちいずれかで回答



# アンケート項目

1. 現在のお住まいは自宅か自宅外か？
  - a) 自宅を選んだ方はこのまま住み続けるか？
  - b) 自宅以外の方は、避難先名、避難先住所
2. 怪我の有無は？
3. 家屋の被災状況は？
4. 利用可能な移動手段
5. 家族や知人など近くに援助してくれる人はいるか？
6. 現在、困ったり悩んでいることは何か？
  - ① 自分が暮らしている地域の生活関連情報が聞こえにくくてわからない。
  - ② 外部の音声情報が得られにくく、周囲に迷惑をかけたり申し訳なく感じる。
  - ③ 自分のきこえについて話したり相談できる相手がいない。
  - ④ 補聴器・人工内耳の電池が確保できなくて困っている。
  - ⑤ 地震発生前よりも孤独感、無力感、閉塞感が強くなったように感じる。
  - ⑥ 地震発生前よりも家族や近所の方々と話す機会が減ったように思う。
  - ⑦ 他に困っていたり悩んでいることがありますか？ 自由にご記入ください。



## 7. 希望する支援内容は何か？

- ① 補聴器、人工内耳の電池がほしい。
- ② 補聴器や人工内耳について相談できる窓口がほしい。
- ③ 連絡や情報収集のために携帯電話を使いたい。
- ④ 携帯できる筆談ボードがほしい。
- ⑤ 要約筆記の派遣をしてほしい。
  - a) 派遣を利用したい具体的な内容
  - b) 今後公的な申請や被災手続きで派遣の利用予定の有無
- ⑥ 人やテレビの音声情報を文字で通訳してほしい。
- ⑦ 携帯電話にNHK番組の字幕をリアルタイム配信してほしい。
- ⑧ 居住地域の生活情報の把握が早く把握できるようにしたい。
- ⑨ 難聴協会員や要約筆記の方々など安心して話せる仲間に出会いたい。
- ⑩ 福祉避難所(二次避難所)を使いたい。
- ⑪ その他( 自由にご記入ください。 )

8. 今後困ることが予想されること、心配なことは？

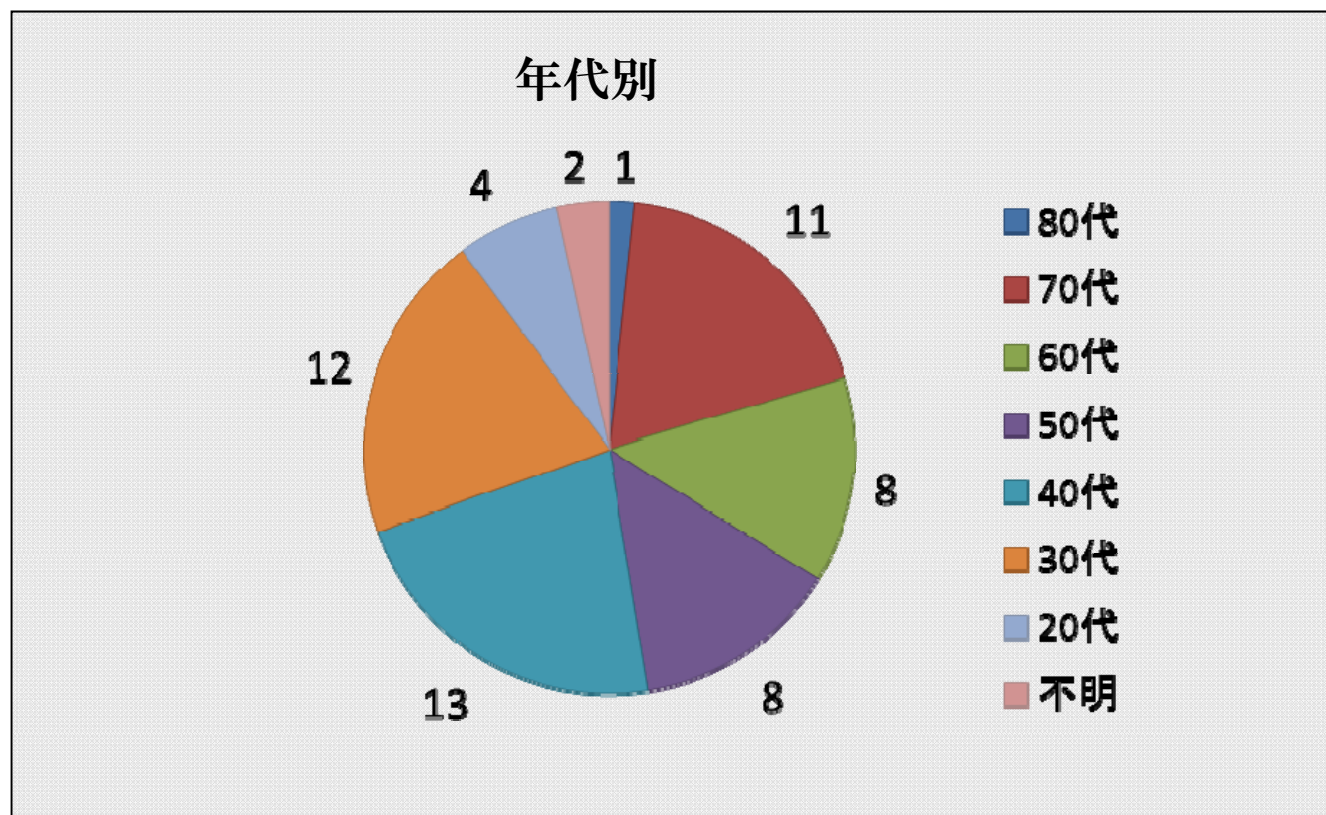
9. 聴覚障害者救援活動に参加できますか？

10. 行政、地域、避難所への要望、意見は？

11. 難聴協会、対策本部への要望、意見は？

# 回答者の属性

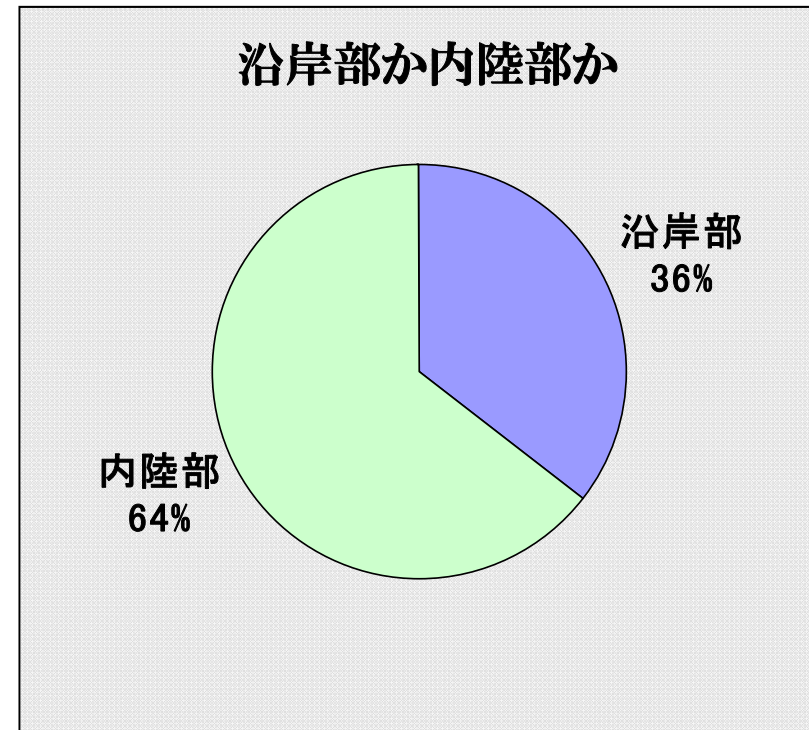
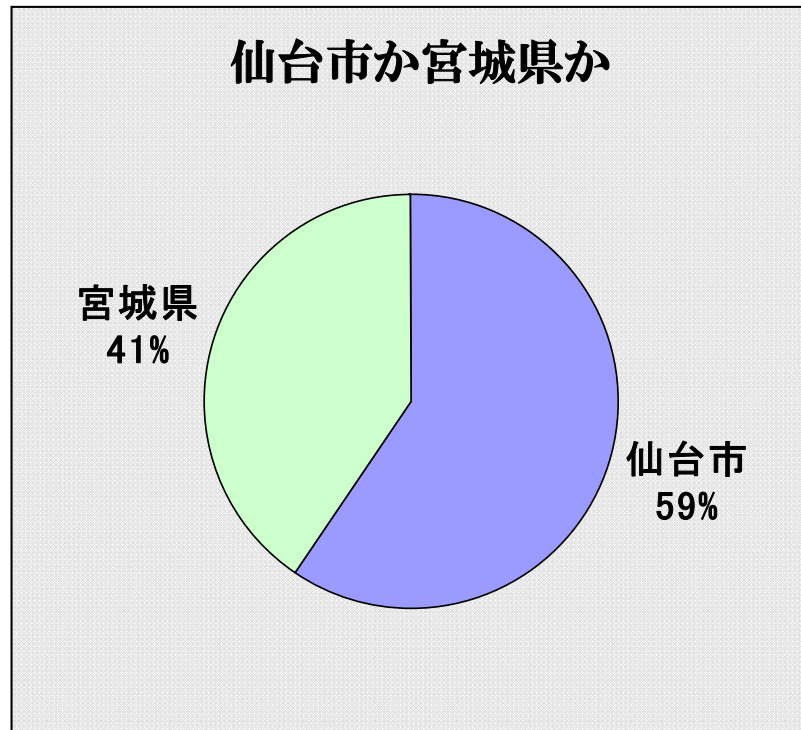
➤回収率82%(72名中59名)



➤30～70代の各世代を見ると、10名前後の人数で構成されている。

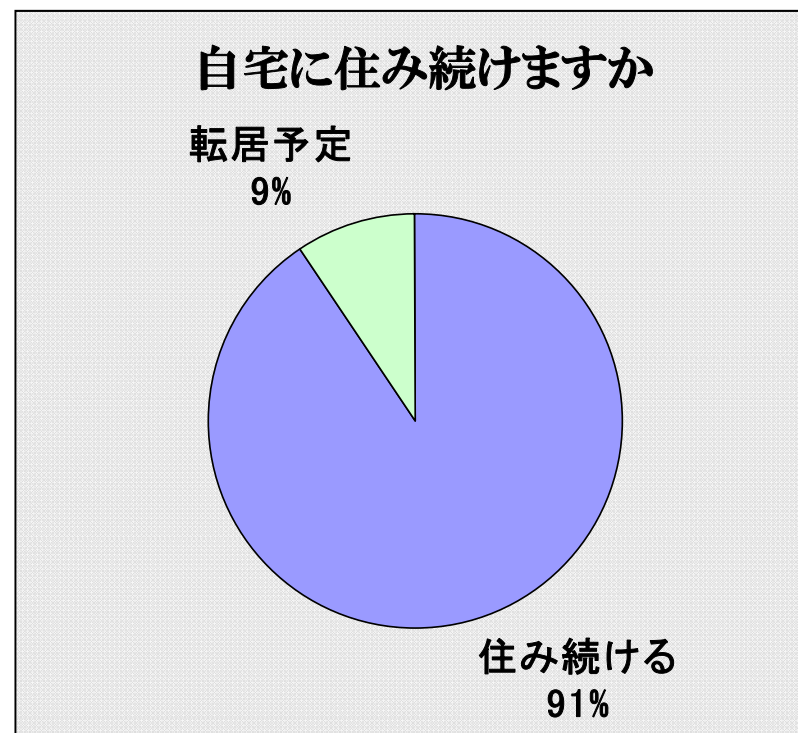
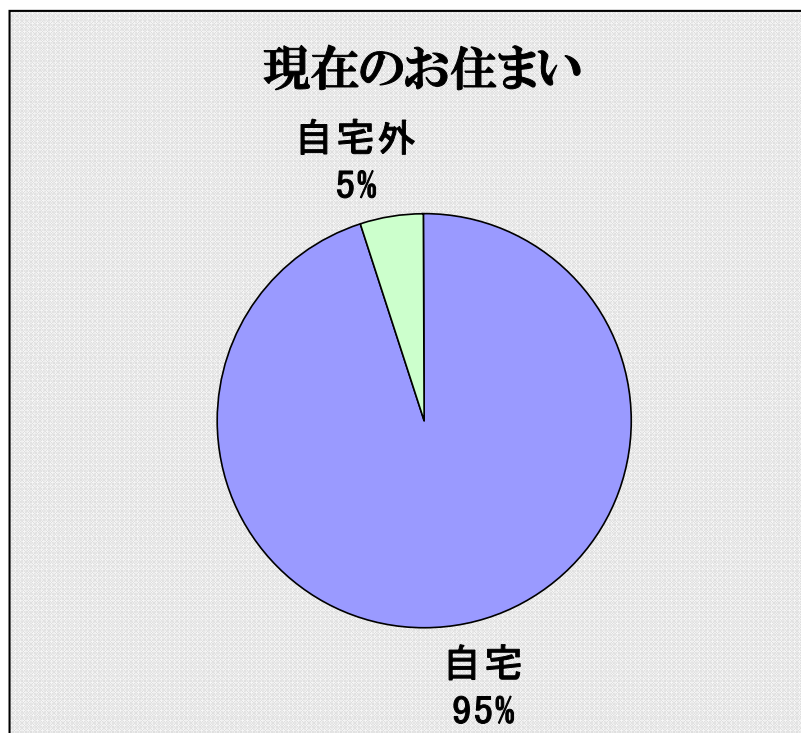
➤20代以下、80代以上の会員はいずれも5名未満である。

# 回答者の属性



- ▶仙台市と宮城県(仙台市以外)の割合が6:4(35名、24名)。
- ▶内陸部と沿岸部の割合もほぼ6:4(38名、21名)。
- ▶大津波の被害を受けた気仙沼(1名)、南三陸(2名)は無回答だが、別に行った安否確認で生存が確認されている。

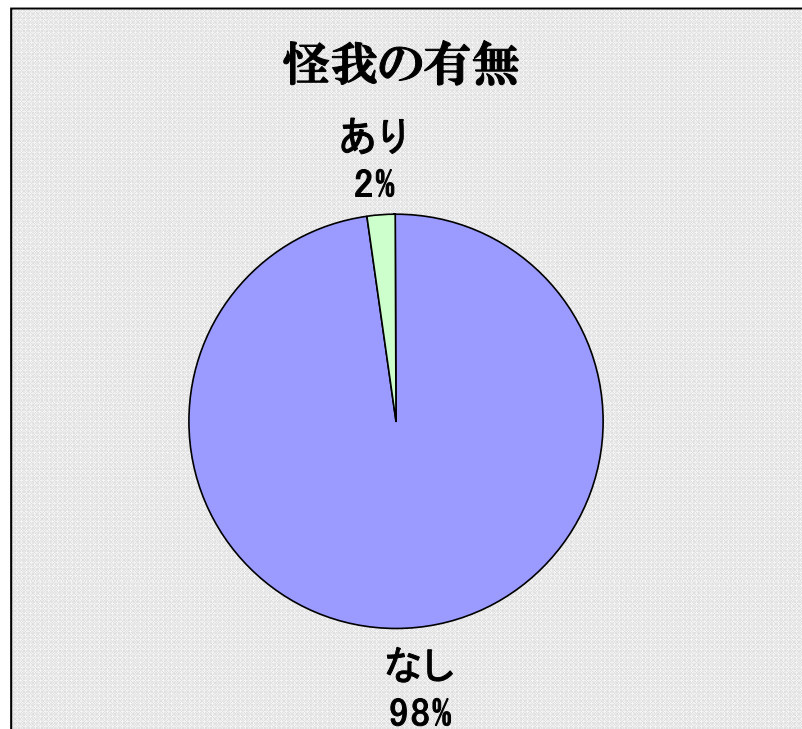
# 1. 現在と今後の住まいについて



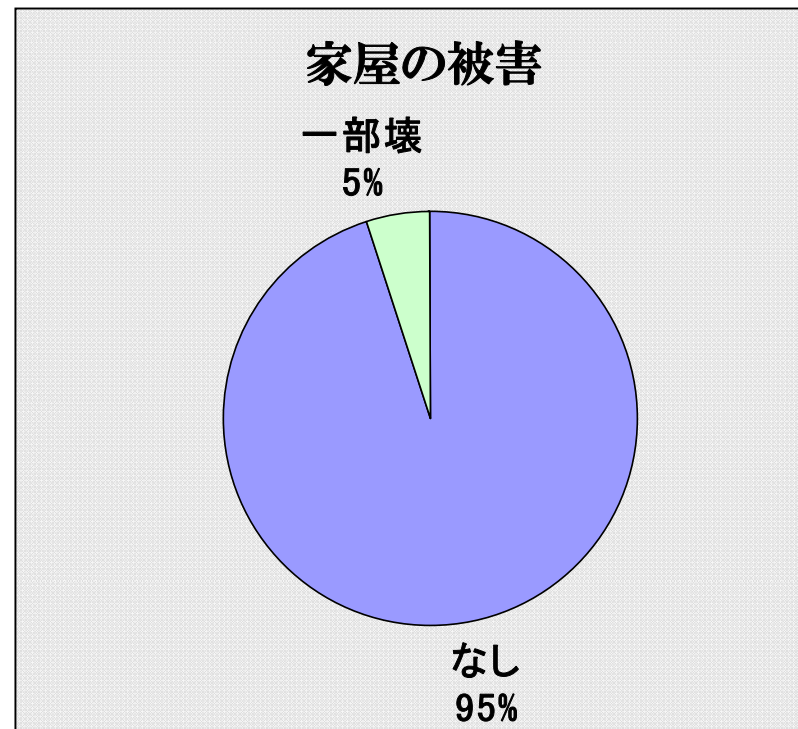
- 回答者の95%が自宅で生活。(※気仙沼・南三陸は無回答)
- 「自宅外」の回答者は、実家や別の住宅で生活しており、避難所は皆無。
- 現在自宅で生活している者のうち約1割が転居予定または転居を検討中。



## 2. 怪我は？



## 3. 家屋の被災は？



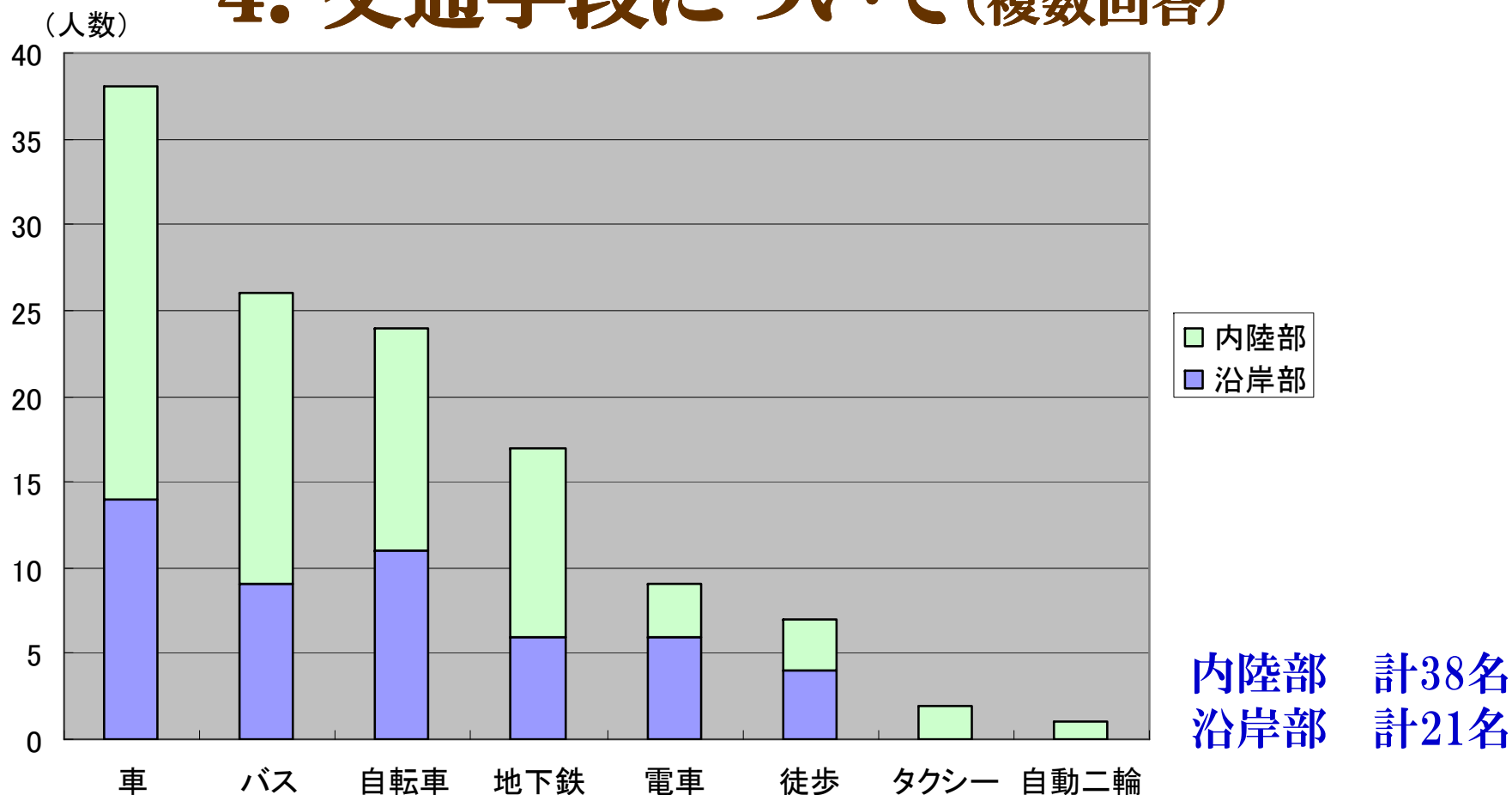
➤ 上記回答者のうち怪我は1名のみ(全治3週間)

➤ 家屋の全壊・半壊は皆無、一部壊は5%(16名)であった。

※1 大津波の被害を大きく受けた気仙沼・南三陸地域の会員3名からは無回答。

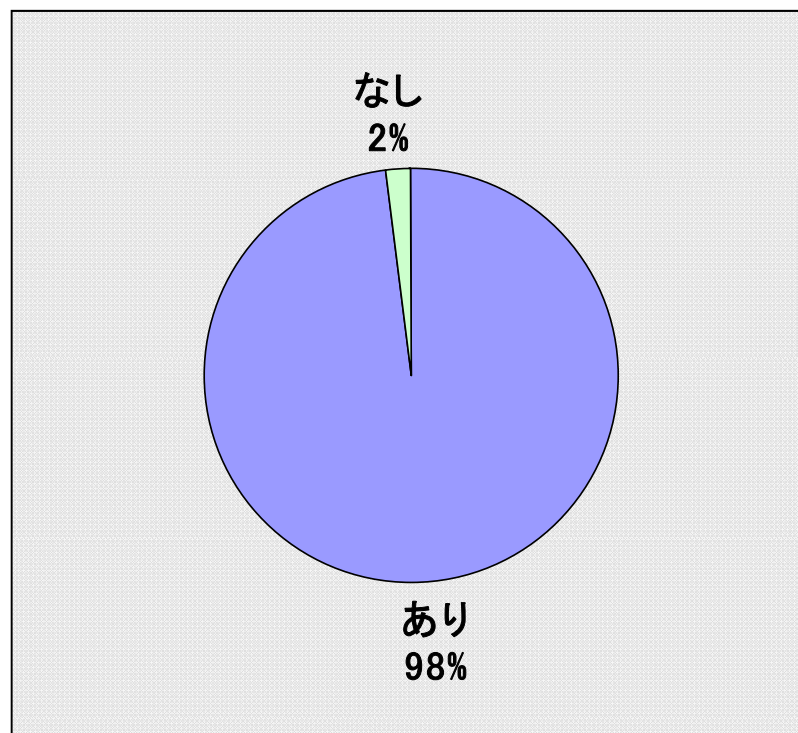
※2 回答後、4月7日の大余震で沿岸部の会員1名が家屋に被害を受けた。

## 4. 交通手段について(複数回答)



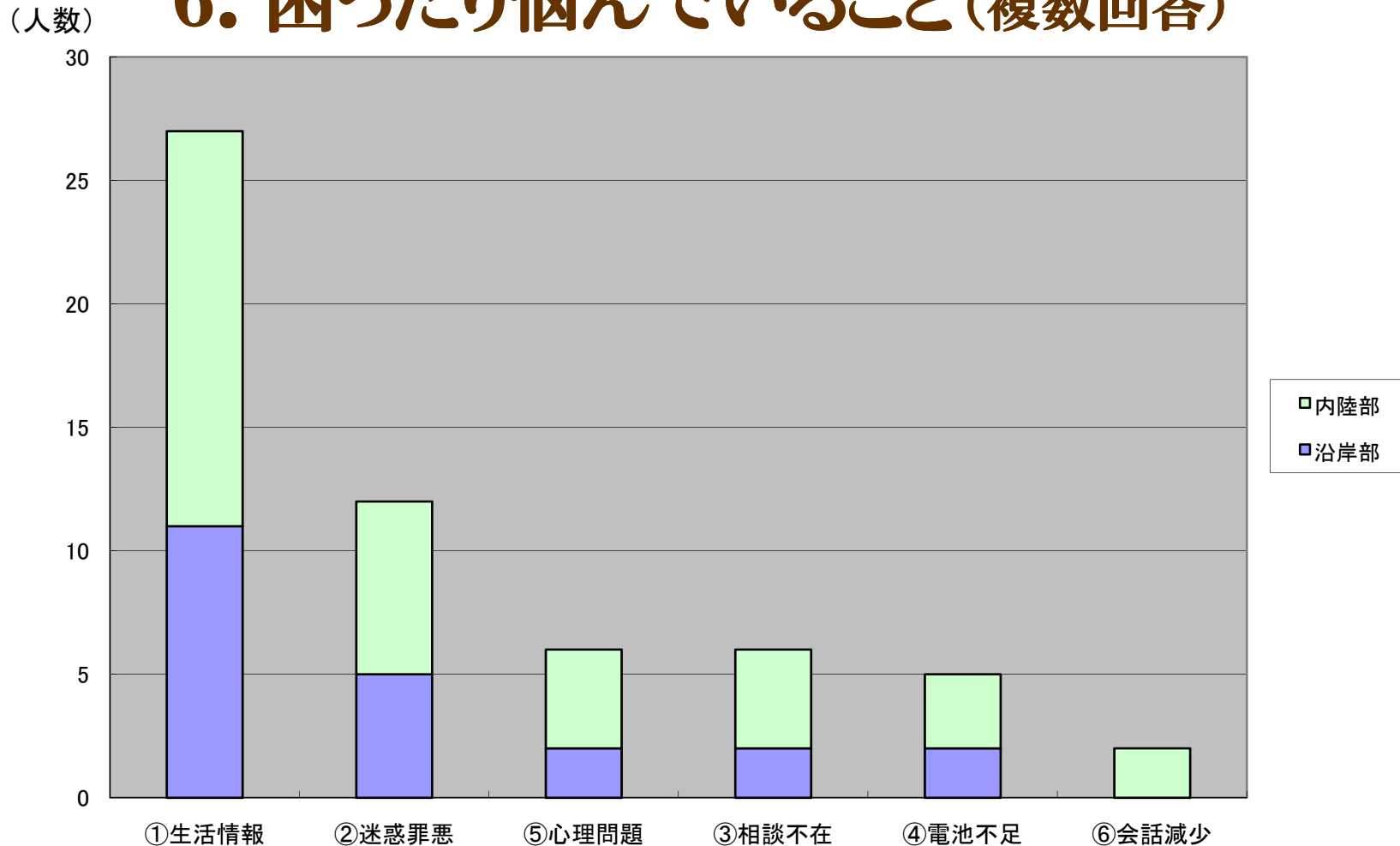
- 全体的に「車」が一番多い。但し、「困ったこと」の項目でガソリンの入手困難の声は複数あったことを鑑みると、手段はあっても使用困難である状況である。
- 全項目の中で沿岸部の回答が多かったのは「電車」・「徒歩」である。
- 「タクシー」「自動二輪」は無回答だが、潜在的な利用数は多いと思われる。

## 5. 身近に聴こえを理解してくれる方は？ (家族・知人など)



- ▶ 回答者全員の98%が身近に援助してくれる人がおり、その人の属性では家族が多く、他に近隣の人、社協、サークルが挙げられた。
- ▶ 身近に援助者がいない回答者は1名のみでご本人・家屋ともに被害がなく、ライフラインも比較的早く復旧した地域であり、地域とのつながりへのサポートが必要と考えられる。

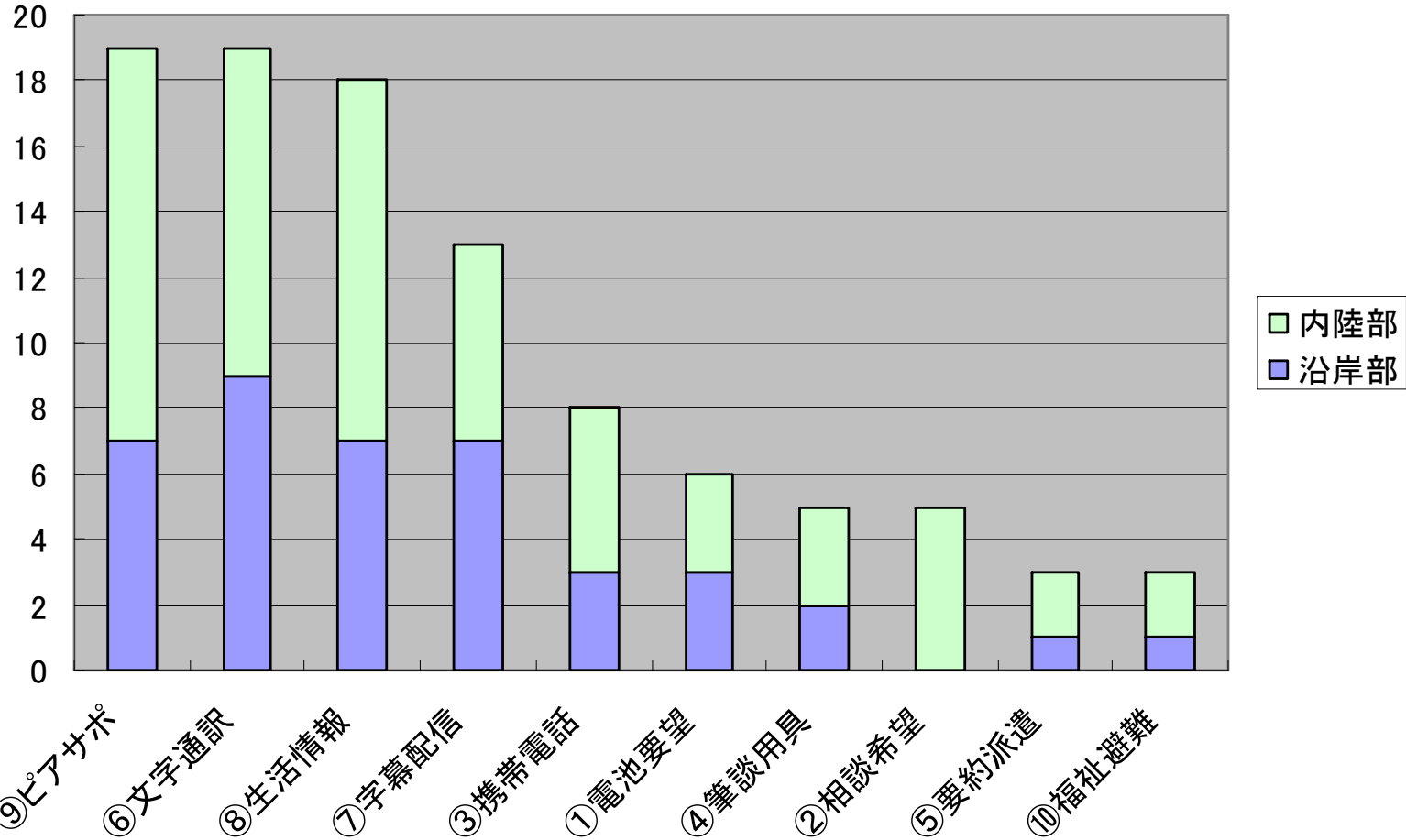
## 6. 困ったり悩んでいること(複数回答)



- 「①地域の生活関連情報が聞こえにくくてわからない」が回答者の約半数を占める。
- 「②周囲に迷惑をかけている」が2番目に多く、3番目に多い「⑤孤立感、無力感等を震災前より感じるようになった」「③自分のきこえについて相談できる相手がいらない」は同数であった。
- 「⑥会話減少」を除き、沿岸部と内陸部との間に顕著な差異は見られない。

## 7. 希望すること(複数回答)

(人数)



➤⑨⑥⑧⑦については、沿岸部回答者の30%以上が希望する内容となっている。⑥⑧⑦の  
に示されるように情報弱者としてニーズや重要度が高く、それゆえ⑨のように同じ状況に  
おかれている者同士で経験した苦しみや孤独感を分かち合い、安心したいという気持ちが  
強く表れていると思われる。

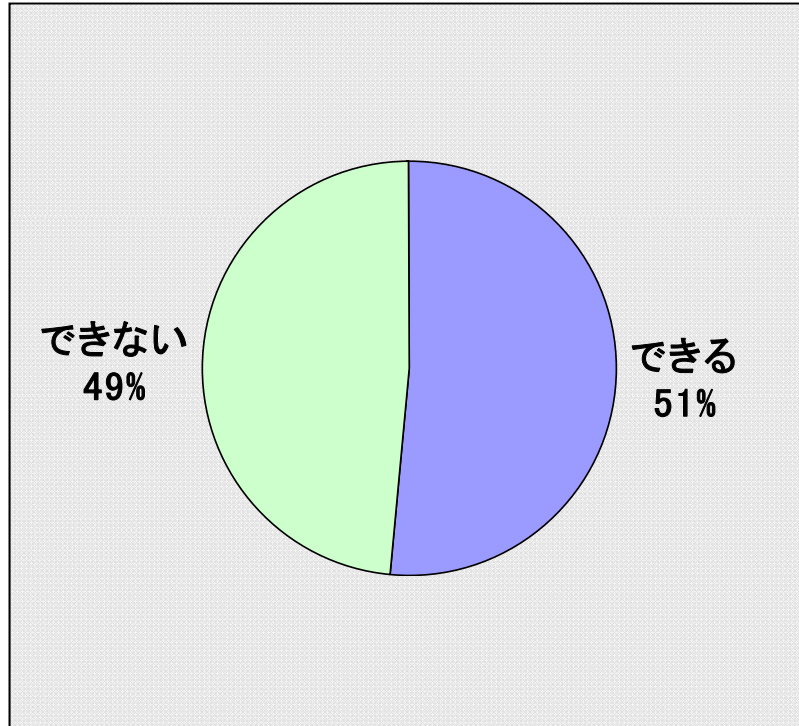
## 8. これから心配なこと(自由記述)

①解雇・収入減・修繕費など経済面	6件
②理解者がいなかった場合の情報不足、孤独への不安	5件
③生活情報など、情報の入手	4件
④震災そのものに対する恐怖	3件
⑤携帯電話使用不可による情報不足	2件
⑥アナウンスが聞こえない	2件
⑦手話のできる人がいない	1件
⑧聴力低下に伴う家族からの孤立	1件
⑨建物の倒壊	1件
⑩家や家族を失った方の心の問題や生活再建	1件

- ①経済面での不安は、聴覚障害の有無に関わらず最重要問題である。但し、解雇・収入源に関しては情報獲得困難ゆえに不利になる可能性はあり、注意する必要がある。
- 聴覚障害に関連する項目は、②③⑤⑥⑦⑧の順に多く、計15件となる。7の希望すること等、前の設問と重複するにもかかわらず自由記述されているため、ニーズは非常に高いと言える。



## 9. 聴覚障害者救援活動への参加



### 協力できる内容(一部)

- ・インターネットでの情報収集
- ・物資の仕分け
- ・カウンセリング

### 協力できない理由(一部)

- ・交通手段やガソリンがない
- ・家の片付けなどで手一杯
- ・持病や高齢のため

- 聴覚障害者救助活動への参加の可否は半々だった。
- 参加可能な会員においては、「物資仕分けのみ」「土日のみ活動可能」など条件付での回答が多かった。救援活動との効果的なマッチングが必要である。

## 10. 行政、地域、避難所への要望、意見 (自由記述)

①文字でお知らせしてほしい(ニュース、避難所など)	9件
②町の復興支援をしてほしい	2件
③要約筆記・手話通訳の公的派遣の拡大をしてほしい	1件
④障害児を抱える家族のための移動販売をしてほしい	1件
⑤安否確認をFAX等で行ってほしい	1件
⑥聴覚障害者だとわかるバッチがほしい	1件
⑦壊れた日常生活用具は再申請可能か情報がほしい	1件
⑧物資の支援をしてほしい	1件

➤情報を「文字(字幕)でお知らせしてほしい」という要望が圧倒的に多く、文字情報獲得のニーズが非常に高いことが確認された。



# 11. 難聴協会、災害対策本部への要望、意見 (自由記述)

## 【感謝・激励】

①難聴協や災害対策本部への感謝、激励の言葉 10件

## 【要望】

②情報提供のための場所や手段の構築を望む 4件

③安否確認をしてほしい 2件

④通訳が必要だと理解してもらえないので策を講じてほしい 1件

⑤MLへの無駄な投稿は控えてほしい(電池の消耗防止) 1件

## 【当会以外への意見等】

⑥障害者や関係者が優先的に給油できるようにしてほしい 2件

⑦全難聴でも機関紙を発行してほしい(災害関係の情報) 1件

▶要望では「情報提供のための場所や手段を望む」が一番多く、「インターネットを使った情報提供(ホームページへの情報掲載など)」と、「インターネットが見られなくても情報を得られる方法の構築」を望む声が半々程度であった。

# 全体的考察

- 大震災で懸念していた会員の被害は想定していたより小さいものであった。但し、会員の家族や親せき等については把握しておらず、今後の被災者支援でもう少し全体的な状況を把握していきたい。また、県内難聴者の全体的把握もあわせて行う必要がある。
- 回答者の大部分に身近に援助する人がいたことについて、従来、当会で災害対策関連の企画や講座の開催に取り組んできたことが有効に働いたのではないかと思われる。日頃からの「地域のつながりによる情報共有」こそが、難聴者の生命・安全を確保するために重要であると改めて確認できた。また、つながりの喪失を不安視する意見も複数出されており、今後注視していく必要がある。
- 仲間同士でのピアサポートへのニーズが高いことが確認された。これは、生活情報や支援情報の獲得困難、その情報不足に伴う意思疎通・意思表示・意思疎通がうまくできない等の困難や、そのことで家族や周囲に迷惑をかけていると感じることと無関係ではないと考えている。ピアサポート活動を通して、不安感や孤立感の軽減・コミュニケーション不全感の解消を図り、自分は相手と会話できる、自分も相手を支えることができるというふうに自尊心や主体性を回復していければと思う。
- NHKや地域生活に関わる音声情報の獲得が困難なため、文字通訳や字幕配信のニーズが高いことが確認された。携帯端末を活用した生活情報等の獲得方法を伝えたり、被災者のニーズを詳しく把握した上で必要な情報を提供する必要がある。
- なお、「福祉避難所」は、共通の特別なニーズを持つ集団の確保によって効率的な支援が図られる点で注目される支援手段ではあるが、今回の調査では自宅が無事の回答が多数のため希望者は若干名であった。



# 今後の救援体制に向けて

実名回答方式のため回答者個別データ一覧表も作成し、これと今回の調査結果とあわせて、今後の救援活動について検討した結果、以下の取り組みを行うこととなった。

## ■ きこえの支援について

会員、支援団体(JDFなど)に、補聴器・人工内耳関係の支援情報(電池の無償提供など)を周知させていく。また、筆記ボードなど筆談に必要な物資も希望者に配給する。

## ■ 生活情報や福祉関係の情報の獲得について

難聴者が居住する地域の生活情報を、iPhone等の端末でTwitter、ブログ、メーリングリスト等を活用して情報収集する手段や機材を提供する。また、対策本部や当会事務局は、引き続き会員の被災状況等の情報収集や、被災者宅・避難所の訪問を継続する中で、必要な情報を提供する。

## ■ ピアサポート活動(心のケア活動)について

被災者宅訪問による1対1でのピアサポート活動と、難聴者を集めて交流する企画の実施による集団でのピアサポート活動の両方を行う。

## ■ 要約筆記の活用について

要約筆記の利用経験がないことや制度の周知不足等を踏まえ、要約筆記体制の充実を図るために、要約筆記者を伴い、被災者宅訪問による要約筆記利用意識の促進を図る。また、沿岸部を中心に宮城県・各市町村福祉課を訪問し、コミュニケーション支援事業の現状把握や要約筆記者配置の要請の交渉を行う。



# 東北地方太平洋沖地震における 難聴者の被災状況・支援ニーズ に関する調査報告

発行日：平成23年4月27日

実施団体：災害対策宮城本部  
特定非営利活動法人みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会  
特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会宮城県支部

協力企業：株式会社プラスヴォイス